

製品名: COL18A1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09175**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	COL18A1
別名	COL18A1; Collagen alpha-1(XVIII) chain
遺伝子 ID	80781.0
SwissProt ID	P39060
免疫原	抗血清はヒトコラーゲン XVIII α 1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 801-850

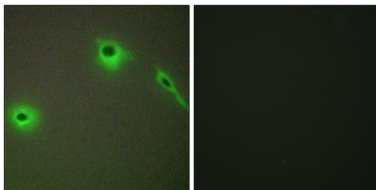
背景

この遺伝子は、XVIII 型コラーゲンの α 鎖をコードしています。このコラーゲンは、複数の三重らせんドメイン（コラーゲンドメイン）

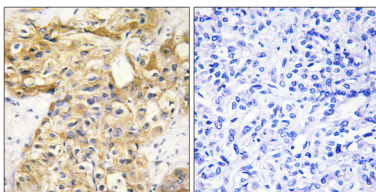
ン) と非コラーゲンドメインを含む細胞外マトリックスタンパク質であるマルチプレキシンの一つです。このタンパク質の長いアイソフォームは、frizzled 受容体の細胞外部分と相同性のある N 末端ドメインを有しています。C 末端ドメインの複数の内因性切断部位におけるタンパク質分解プロセッシングにより、血管新生と腫瘍の増殖を阻害する強力な抗血管新生タンパク質であるエンドスタチンが生成されます。この遺伝子の変異は、ノブロック症候群と関連しています。この症候群の主な特徴は網膜異常であるため、XVIII 型コラーゲンは網膜構造と神経管閉鎖に重要な役割を果たしている可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2014 年 12 月]、疾患: COL18A1 の欠陥は、ノブロック症候群 (KNO) [MIM:267750] の原因です。KNO は、強度近視、網膜剥離を伴う硝子体網膜変性、黄斑異常、および後頭脳腫瘍の発生を特徴とする常染色体劣性疾患です。機能: COL18A1 は、網膜構造の決定と神経管の閉鎖において主要な役割を果たしていると考えられます。機能: エンドスタチンは、内皮細胞の増殖と血管新生を強力に阻害します。成長因子シグナル伝達に関与するヘパラン硫酸プロテオグリカンに結合することで、血管新生を阻害する可能性があります。多型: 位置 1675 の多型と前立腺癌の間には関連があります。ヘテロ接合性 Asp-1675 の人は、ホモ接合性 Asp-1675 の人に比べて、前立腺がんを発症する可能性が 2.5 倍高くなります。PTM: トリペプチド繰り返し単位 (G-X-Y) の 3 番目の位置にあるプロリンは、鎖の一部またはすべてで水酸化されています。類似性: マルチプレキシコラーゲンファミリーに属します。類似性: 1 つの FZ (frizzled) ドメインを含みます。類似性: 1 つの TSP N 末端 (TSPN) ドメインを含みます。組織特異性: 複数の臓器に存在し、肝臓、肺、腎臓に最も多く存在します。

研究分野

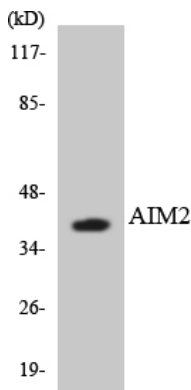
画像データ



コラーゲン XVIII α 1 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



コラーゲン XVIII α 1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



AIM2 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。

